

第二みちのく有料道路のあり方についての提言
《 参 考 資 料 》

令和3年5月

第二みちのく有料道路のあり方検討委員会

目 次

1. 導入を検討するサービス向上策	1
1.1 料金支払いの円滑化(ETC 整備)	2
1.2 サービス速度の向上(最高速度の見直し)	3
1.3 重大事故(はみ出し)の発生防止(ワイヤーロープの設置)	4

1. 導入を検討するサービス向上策

料金徴収期間を延長する場合は、利用者の理解を得ることが必要であるため、利便性の向上や利用促進（期間延長後における償還の確実性向上）を図るためのサービス向上策（案）を以下の通り検討した。

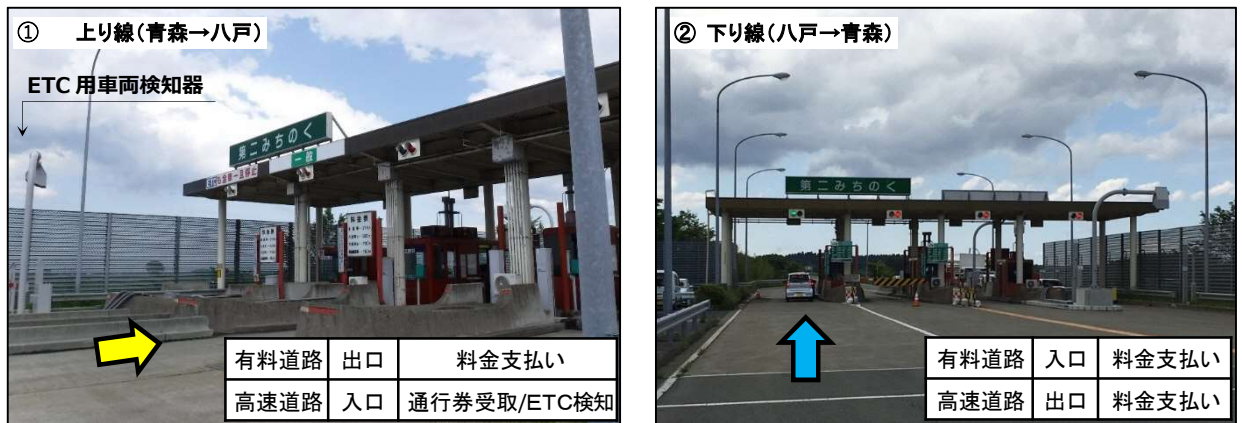
番号	施策	具体策
①	料金支払の円滑化 （料金所における渋滞の解消）	E T C整備 （下田本線料金所）
②	サービス速度の向上	最高速度の見直し （現在60km/h→70km/h）
③	重大事故（はみ出し）の発生防止	ワイヤーロープの設置 （車線分離部）

1.1 料金支払いの円滑化(ETC 整備)

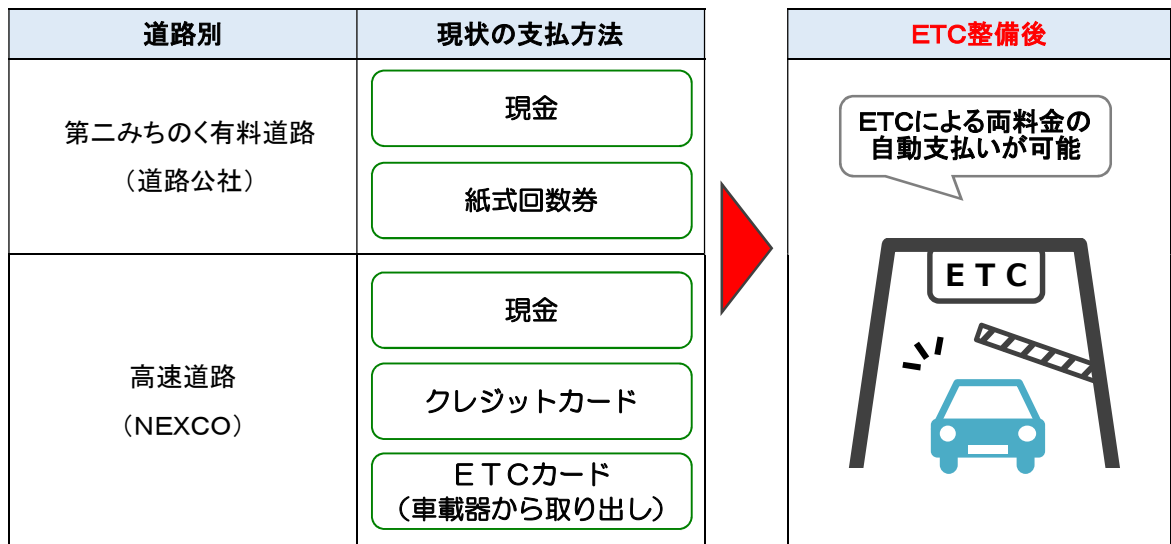
現在、第二みちのく有料道路の料金はETC支払いが不可である。また、高速道路※の料金をETCで支払う際は、車載器からカードの取り出しが必要であることから、利用者が集中する時間帯や期間は料金所で渋滞が発生しており、利用者からETCの要望が非常に強い。

ETC整備により、両料金の自動支払いが可能となり、渋滞の解消や利用者の負担軽減等の効果が期待される。また、これまで支払いの煩雑性を避けるため、一般道を回っていた車両が有料道路に転換する利用促進の効果や、非接触の支払いによる感染症対策にもつながることが見込まれる。

※高速道路：百石道路、八戸自動車道等



《参考》図1 下田本線料金所の状況



《参考》図2 料金支払い方法

ETC整備により期待される効果

支払いの円滑化による
渋滞の解消

自動支払いによる
利用者の負担軽減

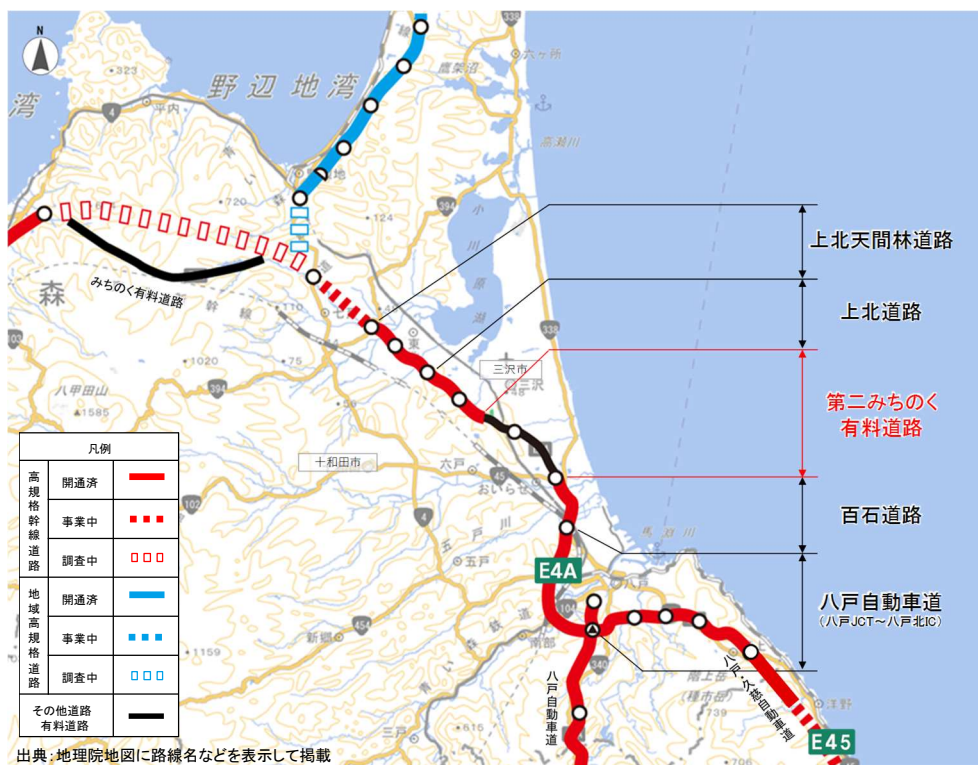
煩雑性解消による
利用促進

自動支払いによる
感染症対策

1.2 サービス速度の向上(最高速度の見直し)

現在、第二みちのく有料道路の最高速度は60 km/h、接続する百石道路や上北道路などは70 km/hで運用されている。

第二みちのく有料道路の最高速度を70 km/hへ見直すことにより、通過時間の短縮が図られ、接続する道路と同等の高速性が確保される。



《参考》図3 第二みちのく有料道路周辺のネットワーク状況

道路名	上北天間林道路	上北道路	第二みちのく 有料道路	百石道路	八戸自動車道 八戸 JCT～ 八戸北 IC
最高速度	70km/h (冬期 60km/h)	70km/h (冬期 60km/h)	60km/h	70km/h	70km/h

70km/hへ見直し

《参考》図4 第二みちのく有料道路周辺の最高速度

最高速度の見直しにより期待される効果

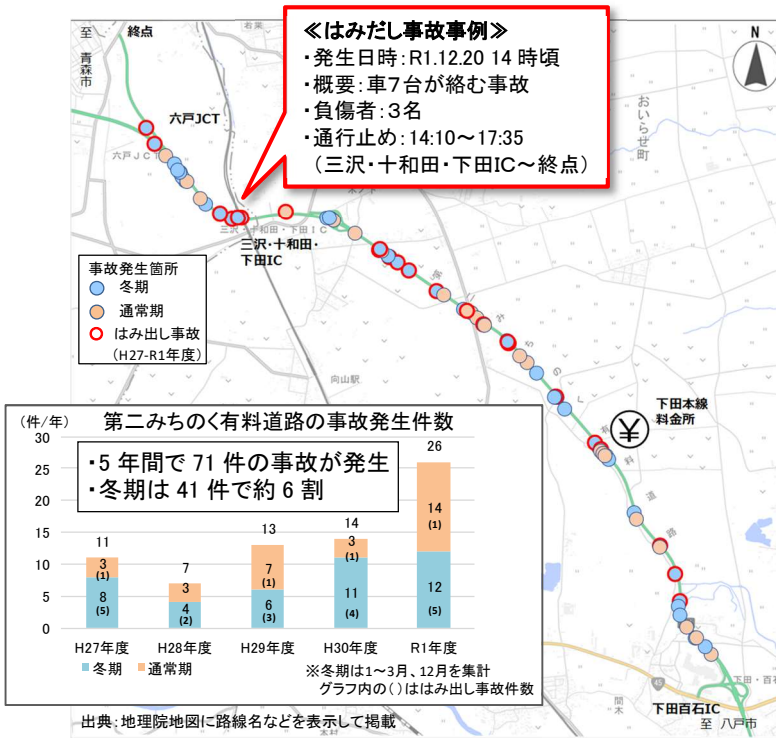
速度向上による
通過時間の短縮

接続する道路と
同等の高速性が確保

1.3 重大事故(はみ出し)の発生防止(ワイヤーロープの設置)

現在、第二みちのく有料道路は、ラバーポールと樹脂製縁石により車線分離がされているが、対向車線へのはみ出し事故が冬期を中心に毎年発生しており、重大事故も発生している。

ワイヤーロープの設置により、はみ出しによる重大事故の発生を防止し、交通の安全性や全面通行止めの回避による定時性等を確保するとともに、利用者の安心感にもつながると考えられる。



《参考》図5 第二みちのく有料道路の事故発生状況



《参考》図6 中央分離構造イメージ

道路名	上北天間林道路	上北道路	第二みちのく有料道路	百石道路	八戸自動車道 八戸JCT~ 八戸北IC
中央分離構造	ガードレール式防護柵(1.5m)	ガードレール式防護柵(1.5m)	ラバーポール及び樹脂製縁石による簡易中分	ワイヤーロープ式防護柵(※)	ワイヤーロープ式防護柵(※)

※土工部の設置完了

ワイヤーロープ式 防護柵に更新

《参考》図7 第二みちのく有料道路周辺の中央分離構造

ワイヤーロープ設置により期待される効果

はみ出しによる
重大事故の防止

交通の安全性確保、
事故発生による全面通行止めの回避、
道路利用者の安心感